

はるか

ha ru ka

VOL.13
2004.10

特集/ドイツ人から見た日本の男女共同参画

- ・トピックス『ジェンダー・ディスカッション』
- ・あなたはDVを受けていませんか?していませんか?
- ・いきいきピープル
- ・『はるか』な声
- ・インフォメーション



特集

haruka

～ドイツ人から見た日本の男女共同参画～

男は仕事?女は家庭?

街の中に外国の方を見かけることは増えてきましたが、お互いを知り合う機会はまだまだ少ないように思います。ほかの国では、会社や家庭での男女意識はどんな感じなのでしょう。そこで、大学で長年、社会学を教えておられるドイツ人のウルリッヒ・メーワルト教授にお話をお聞きしました。



中部大学国際関係学部国際文化学科
ウルリッヒ・メーワルト教授

1987年、農村と家族についての研究のため、東京大学社会科学研究所に派遣され初来日。研究を通し男女平等、ジェンダーに関心を持つ。現在は中部大学などで教鞭をとる。担当教科は「比較日本研究」「社会学」他。

日本へ来て感じたこと

日本では、家族の時間が全く合わないことに驚きました。夫の長時間勤務、休日出勤、休みがあれば寝る、テレビを見る、子どもは塾、家族全員が一緒に過ごす時間は非常に少ないのだと思いました。

日本で「家族」というものは、社会意識のレベルでは非常に重要視されているけれども、実際の家族におけるコミュニケーションなどは、むしろ表面的な気がしました。

ドイツでは1960年代、企業は週休2日となりました。その後80年代には学校も土曜休みになり、子どもが小さい頃は家族で休日を過ごすことが多いです。

核家族化がもたらしたもの

核家族化が進み、夫婦が協力して新しい価値観にもとづいた生活ができると思われたのに、夫の労働時間の延長などで家族の形態が変化し、実際には思い通りになっていないことの方が多そうです。男性の労働時間が長くなると、家事・育児への参加時間も減ってしまいます。母親はずっと子どもと一緒にいることになり、子どももまた少子化により、ほかの子どもたちとコミュニケーションをとる機会が少なくなってしまう、両方にストレスがたまりやすくなります。愛情・感情レベルでの父親の不在が、日本の子育ての環境を悪化させているのではないかと思います。企業が目先の利益ばかり追求し、家事・育児と就労が両立できる体制づくりをしないと、出生率の低下はますます進んでゆくでしょう。そうなると、日本の国の力自体が弱まってきます。

男は仕事?女は家庭?

ドイツでもまだ性別役割分担意識は根強くありますね。しかし1950～60年代をピークに、70年代から徐々に減ってきてはいますし、日本も同じような傾向をたどっています。

日本でいま一番大きな問題は、子育てと家事は女性に任せられがちなことですね。我が家では、家事は時間のある方がしています。

「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な決めつけを生む背景には、男性側の「女性には家庭を守ってほしい」という考えばかりではなく、「収入の多い夫と結婚して専業主婦になりたい」という女性側の考えも影響を及ぼしています。これはドイツ、日本に共通と言えるでしょう。

子どもの育ち方 ～同年代のグループから、複数年代のグループへ～

ドイツでは子どもを取り巻く社会問題の増加が反省点となり、幼稚園、小学校で同年代のグループから複数年代のグループを作るようになってきました。

子どもが自らの振る舞いや攻撃性のコントロールを身につけるためには、複数年代とのかかわりの中で自分の役割を果たす経験を小さい頃にしたほうがいいとの考えからです。

日本では、子どもに関する社会問題が起きた場合、他国で何が起きているか、どう対処しているのかに目を向けて比較することが少ない傾向があります。EUには、例えばいじめに関する国際的な研究プロジェクトがあり、それによって国同士の連携が図られています。

日本では、女性は子ども扱い？

仕事中に、女性社員のことを「うちの女の子」と呼ぶ場合がありますね。これには違和感がありました。日本における男女の上下関係のあらわれだと思えます。

日本の男性はよく「女房が怖い」と言いますが、女性の発言を「怖い、怖い」とからかって軽く流して済ませようという気持ちがあるかもしれませんね。

成績優秀でなくてもいいから男子学生がいい?!

過去にある企業から、「成績トップ20内の男子学生を紹介してほしい」との話があり、「トップ20に男子は1人もいない」と答えると、「では、とにかく男子。男子の中でなるべく優秀な学生を」と、要望が変更されたことがありました。「とにかく男子」なんですね。こういうことは、ヨーロッパ、アメリカの企業では、あり得ません。日本には、いまだにこのような傾向が強く残っていると感じます。もっと女性の能力を活かすことが必要ではないでしょうか。

意識の変化 ～男女共同参画の実現に向けて～

日本に来て16年、若い人たちの意識の変化を確実に感じることができます。男女平等意識が強くなり、「男性は仕事、女性は家事・育児を担当して当然」という考えは少なくなってきました。また、家事を積極的にする男性、責任を持って社会で活躍する女性も増えてきました。

日本の場合、その変化は若い人に限られていません。人口の多くを占める50代、60代の人々の意識にも一貫した方向性が見られます。その動きにこそ、変化を期待することができます。いまの若者たちがリーダー世代となるころには、一気に変化が訪れる可能性が高いと思っています。



ドイツ人の教授ということで緊張しましたが、気さくな感じで質問にも丁寧に答えてくださいました。「見なれた家族風景」、「企業意識」、「少子化」等、身近にあるさまざまな事象は、別々のものではなく、実は根底で複雑に影響を与えあっているのだと実感しました。

「男女共同参画社会を実現しないと日本はダメになる」という教授の言葉が一層強く心に残りました。

●トピックス『ジェンダー・ディスカッション』

8月5日、『レディヤンかすがい(青少年女性センター)』において、身のまわりからジェンダーを見つめ、今後のあり方を考えようというジェンダー・ディスカッションが行われました。

市内の全中学校からそれぞれ1名ずつ、男女16名の生徒が集まり、コーディネーターの松田照美先生(愛知淑徳大学講師)の進行で、『女であることの損・得 男であることの損・得』をテーマに、話し合いが始まりました。

女性であることで得した、良かったと思うことには、「女性向けの店が多い、スカートとズボンの両方がはける、女性割引のサービスがある、おしゃれを楽しめる、子どもを産める、楽な仕事が多い」等、女性であることで損した、嫌だと思うことには、「安月給、出世しにくい、女らしく・女のくせにと言われる、門限が厳しい、部活動などで選択肢が少ない、体力がない、男尊女卑の名残がある、出産が大変、痴漢にあいやすい」等々の声。



男性であることで得した、良かったと思うことには、「色々な仕事を選べる、あまり家事をしなくてよい、自分の身を守れる、外見を気にしなくてよい、乱暴な言葉を使える、運動ができる、友達関係がサッパリしている、行動範囲が広い」等、男性であることで損した、嫌だと思うことには、「めそめそすると言われる、我慢をすることが多い、力仕事を押しつけられる、仕事をしなければいけない、家族を養うのが大変、怒られやすい、男のくせにと言われる」等の声が出されました。

その後の意見交換の中では、「体力の違いで差が出てくる、男性にしかできないこと、女性にしかできないこと

がある、損があるから得がある(損と得は裏表)、女性もできることを頑張ればよい、男子も大変だなと思った」等の発言がありました。

ここで松田先生から、「かわいくて、か弱いという女の子のイメージは、社会的に期待されていないということでは? 男は責任のある仕事、女は周りから優しくしてもらえるけど安月給、それでいいのかな? 男は強い、女は弱い、それってホント?」という問いが投げかけられました。

それに対し、「今まで女の子は楽で得だなと思っていたが、ちゃんと責任のある仕事をしたい、個性が違うからお互いに理解し合うことが必要、仕事も家事も両方できた方がいい」といった声が男女双方から上がりました。

最後は松田先生からまとめとして、女らしさ男らしさに縛られることなく、自分の持っている力を伸ばしていくことの大切さが語られました。

●取材を終えて

まだまだ男女の性別によって、周りの接し方が微妙に違うことに驚かされます。中学生の段階で、すでに周囲からジェンダーの影響を十分に受けているようです。柔軟な精神を持つ中学生たちにとって、この日のディスカッションが、ジェンダーを考える良いきっかけになればと思いました。



※ジェンダーとは…長い間の積み重ねで、女(男)はこうあるべきだと意識下で思いこまれ、社会的・文化的に作られてきた性別のこと。

あなたはDV(夫・恋人からの暴力)を受けていませんか? していませんか?



●DV下で子どもたちは…?

発達段階の子どもたちには、安全で安心できる家庭環境が非常に大切であり、将来のある子どもたちに対する暴力や虐待は、心身への影響やその痛みから絶対に許されるものではありません。心理学的にも、生理的な要求である食事、睡眠とともに、安全と安心の要求が満たされることが重要といわれています。

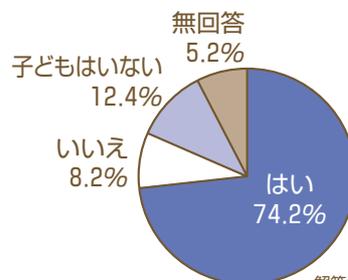
信頼している母親が、繰り返し父親から暴力を受けているところを目撃したり、物が壊れる音や脅迫の声を聞いたりすることで、子どもたちは極度の恐怖と緊張を感じます。その結果、子どもたちの神経は高ぶり、落ち着きをなくし、両親の顔色を常にうかがうようになってしまいます。

東京都の『「女性に対する暴力」調査報告書』によると、暴力が子どもに及ぼした影響として、“父への憎悪・恐れ” “性格・情緒のゆがみ” “不登校” など、多くの問題や症状が現れるとされています。

また、子どもを叩いてしまうと相談機関に援助を求める母親自身が、夫から暴力を受けている場合も少なくありません。

DVの加害者の多くが、子どものころにDVのある家庭で育った、あるいは親から暴力を受けていたとされています。DVのある家庭で育った子どもたちは、暴力をコミュニケーションの一つとして学習し、親密な相手との関係を暴力によって成立させようとしてしまうと考えられます。暴力は世代から世代へ受け継がれていくのです。家庭内で起きる暴力が、子どもたちに与える影響は計り知れません。

あなた(DV被害者)のパートナーは、身体的暴力を子どもの前でもふりますか、ふりましたか



解答した総人数=194人
(フェミニストカウンセリング堺
「夫・恋人(パートナー)等からの暴力について」調査報告書より)

子どもに現れた問題や症状(複数回答)

解答した総人数=52人	回答数	割合(%)
父への憎悪・恐れ	18	34.6
性格・情緒のゆがみ	11	21.2
不登校	9	17.3
吐く、おもらし、泣く、チック	7	13.5
ノイローゼ、自殺を図るなど	6	11.5
本人が暴力をふるうようになる(きょうだい、友人などに)	6	11.5
無気力、無感動など	4	7.7
周りの世界を遮断する	4	7.7
生活習慣の乱れ(酒、タバコ、パチンコなど)	3	5.8
身体的兆候(発育不良など)	2	3.8
身体的外傷	2	3.8
その他	3	5.8
特になし	7	13.5
不明	4	7.7

(東京都「女性に対する暴力」調査報告書より)

主な相談窓口

●愛知県女性相談センター(女性悩みごと電話相談) ☎052-913-3300

午前9時～午後9時(土・日・祝日・年末年始は休み)

●愛知県警春日井警察署 ☎56-0110(代)

●レディヤンかすがい

お問い合わせ:青少年女性センター ☎85-4188

相談種別	時間	担当	相談内容	電話番号	
女性相談	火曜日 午前10時～午後3時	県相談員	夫婦間のトラブル、結婚、男女問題、家庭内の不和などについて	☎85-7871	
男女人権相談	水・金曜日 午後1時～午後4時30分	カウンセラー	性別による差別的取り扱い、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスによる人権侵害について		
女性のための	家庭相談	木曜日 午後1時～午後4時30分	家庭相談員	家庭内における子育てや女性の悩みについて	注
	法律相談 (予約制)	第1・3土曜日 午前10時～正午	弁護士	夫婦間、金銭、相続など、女性の身の回りの法律問題について	
	こころの相談	第2・4土曜日 午前10時～正午	カウンセラー	女性の不安や悩みなど心の整理への支援について	

注 法律相談の予約 ☎85-4188 午前9時～午後5時受付 ※女性相談以外は祝日も実施します。
※ 女性相談は、月曜日及び火曜日が祝日の場合休みとなります。 ※相談をお受けするのは、すべて女性です。

いきいき

ピープル

今回は、名古屋空港でパッセンジャー・ボーディング・ブリッジ(PBB)オペレーターをされている、名古屋空港サービス(株)ハンドリング3課所属の「江葉 亜由美」さんを紹介いたします。その仕事風景を見学させていただき、お話をうかがいました。



Q:PBBオペレーター業務について教えてください。

A:旅客ターミナルビルと航空機を結ぶ可動式搭乗橋(PBB)の装着をし、お客様に安全に乗り降りしていただく仕事をしています。搭乗の際のタイミングを見計らったり、車イスのお客様などの情報を客室乗務員に伝達するのも仕事の1つです。

Q:なぜこの仕事を選ばれたのですか？

A:飛行機が大好きなんです。小学生のとき、父に航空祭に連れていってもらったのがきっかけでした。そして高1のとき、テレビの特集番組でマーシャリング※1をしている女性を見て決意しました。 ※1 マーシャリング…航空機を所定の位置まで地上にて誘導する作業

Q:実際にこの仕事に就かれてどうですか？

A:航空機のドアの開閉には、力が足りず苦労したこともあります。しかし、到着から出発までを見守ることができるこの仕事に、喜びとやりがいを感じています。お客様から「カバーオール(作業着)似合っているね」と声をかけられることもうれしいですね。

また、仕事をする上で、どんな場面でもあいさつを基本としたコミュニケーションを大切にしています。今後は、社内資格を取得して、マーシャリングや牽引※2、キャビンサービスローダーの仕事もやってみたいです。

※2 キャビンサービスローダー…機内食の積み込み等に使用する専用の大型トラック

Q:上司から見た江葉さんはいかがですか？

A:的確な判断力が必要なのですが、その点において、素晴らしいものを持っています。お客様とも感じよく接していますし、客室乗務員からの評判も良く、今後にも期待しています。

ありがとうございました。



●レポートを終えて

「雲ひとつない青空を飛行機が飛んでいくのを見ると、自分の夢を乗せて飛んでくれているように思います」と瞳を輝かせて語ってくれた江葉さん。23歳のいま、夢を現実のものにし、新たな目標に向かって生き生きと仕事されている姿に感銘を受けました。誰もが夢を実現させることのできる社会環境が着実に整いつつあることを実感しました。

あなたのお近くのいきいきピープルをご紹介します!!

『はるか』な^こえ^え声

なんで、なんで!

星出 みどり

恒例の日曜日の買い物を終え、夫と私は家路を急いでいた。その時、混雑する県道のセンターライン上を、その子は恐れる風もなくポコポコと歩いていた。それも裸足で。当然、周囲の車はノロノロ運転。私はなんとか、おかつば頭の子を道路わきへと連れ出した。

嫌がって逃げ出そうともがく六歳ぐらいの子は異常事態に泣きもせず、言葉も発さず、何かがおかしいとピンときた。シャツの隅にKと姓はあるが、それ以外に手掛かりは無い。警察に電話し、しばらく家で預かる事となった。

やっと、おまわりさん到着。時間・状況など詳しく聞かれ、最後に、「ご主人の名前は?」ときた。「エエー、信じられない! なんで、なんで、ご主人の名前なのよ! 女の子を保護したのも、電話したのも、説明したのも、全部私じゃないの。警察の調書は、男の名前の方が優先されるの? それがマニュアル?」

女の子は無事、家に帰ることができた。しかし私はモヤモヤしている。他意なく「ご主人の名前は?」と聞いた係官も、ついそれに答えてしまった私も、まだまだ男優先社会の殻を破っていないと。

男はこう、女はこう、でなくても……

大野 哲夫

現職中、僕は仕事をして生活費を得、妻は家事と子育てという分担だった。それが男らしい生き方、女らしい生き方だと頭から考えていた。だが、年金生活者となった今は、新しい生活に変わった。高齢者の僕は、朝早く目を覚ます。パソコンを使う趣味は、頭の冴えた寝起きが一番よい。真夏であっても窓を開け放てば、涼しく爽やかな自然の風が書斎に吹いてくる。早く起きれば腹も空く。自然に朝食を作るのは、僕の役割となった。

野菜中心で、バランスのとれた朝食を僕が食べ終えた頃、妻が起きてきて花に水やりを済ましてから、僕が作った朝食を食べる。

昼食はそれぞれ自分で作る。僕はめん類を好み、妻はパン食を好むから、食べたいものを自分で自由に作って食べる。夕食は妻が作る。体力の衰えた高齢者の家庭として、うまく分担して食事づくりができていと思う。男女平等の現代社会では、上手、下手は二の次にして、男だって食事を作らねばならない。僕の場合、「必要は発明の母」的ところはあったが、結果的に公平に食事づくりを分担することになり、家庭内男女平等社会になった。これが意外に快適なことに気づいた昨今である。

●みなさんからのエッセイ(500字程度)を募集しています。

なんでだるうコーナー

? 私=作る人
あなた=食べる人
?

なんで私が座る前から
食べ始めるの?
だからもう
おかわりになるのよっ



なんでおかわりに
気づかないんだ?

ジェンダーに敏感な視点で、今までの「当たり前」を見直してみませんか?

〈表紙イラスト制作者のことば〉井口 弥香さん
「固定観念で男女の生き方を限定せず、個々が尊重し合い成長できる社会へ……という願いを込めて描きました。」

第3回 かすがい男女共同参画市民フォーラム

かがやく個性 のびやかな暮らしを求めて～男と女のファミリーバランス～

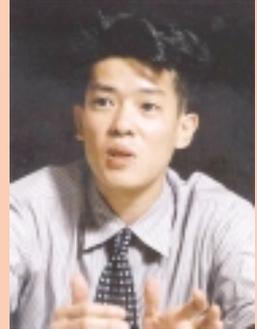
・基調講演「お笑いジェンダー論 ～子育て編～」

講師/瀬地山 角氏 (東京大学大学院総合文化研究科助教授)

・パネルディスカッション

コーディネーター/松田 照美氏 (愛知淑徳大学講師)

瀬地山 角氏と市民の代表者がディスカッションを行います。



瀬地山 角氏

■ と き/平成16年11月20日(土) 午後1時開演(午後0時30分開場)

■ ところ/レディヤンかすがい 多目的ホール

〈主催〉かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会・春日井市

〈定員〉400名

〈申込み〉10月29日(金)〈必着〉までに、住所・氏名・年齢・電話番号(託児希望者は子どもの名前(ふりがな)・年齢・性別)を記入して、下記のいずれかの方法でお送りください。電話でも受け付けます。

・ハガキ 〒486-8686 春日井市役所青少年女性課内、かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会

・FAX (0568)85-3786 ※青少年女性課内、かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会宛

・Eメール sesyojyo@city.kasugai.lg.jp ※件名に「フォーラム申込み」と記入

〈問い合わせ・連絡先〉 春日井市市民経済部青少年女性課 TEL 85-6152

読者の声 - 「はるか」VOL.12を読んでー

- 男性が手にとっても違和感を抱かせない表紙がよい。
- 特集の中の「生徒の声」が具体的で良かったです。男だからとか女だからということではなく、互いが助け合って生活していくことが、今の子どもたちには自然に受け入れられるのでしょうか。それを周りの大人たちが勉強さえしておれば良いというのは、時代に逆行しますね。
- DVについての解説がわかりやすかった。
- 「いきいきピープル」の女性がステキです。こういう人が増え、また、こういう人が伸びていける環境だとよいですね。
- 市民エッセイ「『はるか』な声」は、日常生活の中の実感がこもっていて説得力があると思った。

ご意見をお寄せくださいましたみなさん、熱心に読んでいただきありがとうございます。

編集後記

テレビで『銭形平次』が放送されました。その中で、平次と妻のお静が自宅で語りながらともに家事をこなしているシーンが何回かありました。時代劇といえども、敏感に社会の変化をとらえている点に、拍手喝采です。(佐藤)

“春宵一刻”ならぬ“秋宵一刻値千金”。正に勉学・行楽・スポーツにもってこいの季節です。ただし生かすも殺すも自分次第。一瞬一瞬を大切に、時流に取り残されないようまい進したい。(西田)

時代というのは良い方向へ進んでいくというよりも、多くの人々が望んだ方向へ進んでゆくのだという説を読んだことがあります。一人一人が生きやすい社会を心から望んでゆけば、もっと良い方向へ向かってゆけるのでは?(伊藤)

「これからは男の子でも料理ぐらいできないとモテないわよ」というセリフがどこからか聞こえてきました。ある種ブームの感がありますが、ブームの次には本当の意味での男女共同参画社会が待っているかな?と、楽観的な期待も込めつつ…。(久世)

かすがい市男女共同参画情報紙 『はるか』vol.13
2004年10月発行

企画・編集 はるか編集委員
発行 春日井市市民経済部青少年女性課
〒486-8686 春日井市鳥居松町5-44
TEL0568-85-6152 FAX0568-85-3786
Eメール sesyojyo@city.kasugai.lg.jp

『はるか』vol.13いかがでしたか? ぜひ、みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

また、『はるか』で取りあげたい内容がありましたら、併せてお知らせください。

100%再生紙を使用しています。



ISO14001認証取得
「環境にやさしい自治体 春日井市」